

Q & A : 個別課題部分 (平成30年2月20日時点)

※前回 (2月8日) からの追記部分は青字

【別紙 1-2 : 茶葉の低温保管システムの開発と作期拡大を可能とする新品種の育成】

Q 1 留意事項において、「気象条件の異なる3地域以上での実証試験を必須」とあるが、例えば、同一県内でも気候が異なれば2地域と数えてよいか。それとも、県域を越えるような範囲を想定しているのか。

A 県域を越える範囲で考えていただいております。

Q 2 課題内容が、「低温保管システムの開発」と「新品種の育成」の2つに分かれているが、それぞれの課題で気象条件の異なる3地域以上での実証試験が必要か。それとも、両課題合わせて3地域以上での実証試験か。または、両課題とも実証する地域を3地域以上か。

A 「両課題とも実証する地域」を3地域以上です。

【別紙 1-3 : ドローンやほ場設置型気象データセンサー等センシング技術を活用した栽培管理効率化・安定生産技術の開発】

Q 1 ドローンやほ場設置型気象データセンサー等の「等」はどこまで含まれるのか。人工衛星も含まれるのか。

A 研究目的を達成するには、かなり近接して農作物の状態を把握する必要があります。そういった意味では、人工衛星単体で研究目的を達成することは難しいと思われます。ただ、ドローンなどの機器と人工衛星などの組み合わせで対応するようなことは可能であると考えられます。

いずれにしても目的を達成するという視点での提案をお願いできればと存じます。

【別紙 1-10 : ドローン等を活用した農地・作物情報の広域収集・可視化及び利活用技術の開発】

Q 1 ドローンやほ場設置型気象データセンサー等の「等」はどこまで含まれるのか。人工衛星も含まれるのか。

A 研究目標の達成には、かなり近接して農作物の状態を把握する必要があるものが含まれるため、ドローンの活用を想定しています。

一方、広域の災害調査などでは、ドローン以外の方法で得られた画像も有効であることから、人工衛星や航空などの画像も含めて提案を頂いても構いません。

いずれにしても、現場で活用しやすい視点での提案をお願いいたします。

【別紙 1-11：AI を活用した食品における効率的な生産流通に向けた研究開発】

Q 1 「研究グループに野菜生産者及び流通関係事業者が参画」とあるが、これは『両者』が、『参画必須』と理解すべきか。

A 貴見の通りです。

【別紙 1-12：民間事業者等の種苗開発を支える「スマート育種システム」の開発】

Q 1 公募研究課題 1 について、『研究開発の具体的内容』には「稲、麦類、大豆等」との記述があり、『達成目標』には「a 3 品目以上の農作物」、「b 2 品目以上の農作物」との記述がある。稲、麦類、大豆の中から、3 品目以上、2 品目以上ということか。

A 提案にあたって、必ずしも、稲、麦類、大豆のすべてを含んでいることを求めるものではありません。